

兵庫保険医新聞

第1620号
2010年4月25日

発行所 兵庫県保険医協会
http://www.hhk.jp/
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31
神戸フコク生命海通ビル5F ☎078-393-1801
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)
振替01190-1-2133
(会員の購読料は会費に含まれています)

今号の記事

新点数特集

診療報酬・薬価改定影響度調査結果 4面
レセプト記載要領の変更点 6面
新点数Q&A (医科・歯科) 4~6面

主張 診療報酬改定「混乱もたらす多くの矛盾」 2面

解説 新高齢者医療制度 3面

研究 第18回日常診より 8面
阪神地区からみた観光地の風土病



白衣姿で署名を呼びかける池内理事長(左)と吉岡副理事長(右)。1時間定らずで106筆が集まった(4月10日)

池内理事長をはじめ参加した役員らがマイクを握り、道行く人々に「子どもとお年寄りの患者負担は無料に、一般もせめて2割にしよう」と訴えた。

池内理事長ら訴え

ほとんどの先進国では窓口負担は無料や低額が当たり前という話に、多くの市民が「知らなかった」「3割があたり前だと思っていた」「ぜひ日本でも負担軽減をしてほしい」と、次々と署名に協力した。

神戸元町で街頭署名行動

窓口負担軽減に共感

協会は4月10日に元町商店街前で、協会・保団連が取り組んでいる患者窓口負担軽減、後期高齢者医療制度即時廃止の街頭署名を行った。池内春樹理事長、武村義人・加藤擁一・吉岡正雄各副理事長、口分田勝理事など17人が参加し、1時間定らずの間に署名106筆を集めた。

廃止先送りは公約違反

民主党が総選挙前に「廃止する」としていた後期高齢者医療制度について、廃



署名ポスター

止を3年後に見送ることや、医療費の増加に応じて保険料が上がり続ける仕組みなど従来の問題点を残したままの試案が出されていることを知らせると、通行人から「公約破りだ」「今すぐ廃止すべき」と怒りの声が相次いだ。

医療機関で署名協力を

協会は参議院選挙に向けて、引き続き署名に取り組み。ポスター・解説リーフとあわせて各医療機関で受付に設置するなど、協力をお願いしたい。

署名・リーフの追加注文は、協会事務局 ☎078-393-1807まで

急性期病床にのみ重点配分

今回の改定は診療所は実質マイナスですが、その分、病院に重点が置かれたと言われています。

「病院はプラス」という

が、実際は多くの病院でマイナスではないか。急性期病床に点数が重点配分されているが、長期入院の患者を抱える一般病床や療養病床などは切り捨てが顕著だ。

ますます強まる ますます振るい分け ますます強まる ますます振るい分け

2010 改定 インパクト (医科②)



広畑センチュリー病院理事長、協会病院有床診療所対策部長 石橋悦次先生(姫路市)

一般病床では、看護職員の配置が少ない入院基本料が引き下げられ、90日を超えて入院する患者の報酬が包括化によって激減する。看護職員を増やせば高い方の点数をとれる仕組みだが、人件費のバランスを考えると、中小病院にとって

は簡単が増やせるものではない。機関の患者でも、退院して

が社会問題化しています。家族が患者をみることは大きな負担を伴うため、多くの家庭にとって在宅ケアは困難だ。実際に私の医療

は困った。政府は2012年の診療・介護報酬の同時改定で、急性期は医療保険で、慢性期は介護保険でという棲み分けを、患者と医療現場不在のままさらに強引に進めようとしているのではないか。

療養病床でも、厚労省が「医療の必要度が高い」と定める患者を8割以上入院させている場合の点数が引き上げられているが、病院からすると極めて厳しい条件だ。

結局、急性期患者を扱う病院だけが生き残り、療養病床は、完全に切り捨てられることになる。

この10年、マイナス改定が続いたが、今回の改定でも大きな流れは変わっていない。たとえば、前々回の2006年改定で慢性期リハビリの日数制限が問題になったが、今回、初期段階の亜急性期・回復期リハを重視した加算が新設される一方、慢性期リハは引き下げもある。

全体として、慢性期を医療保険から切り捨てて介護保険に移行させ、医療費を少なくしようという狙いが見える。政府は2012年の診療・介護報酬の同時改定で、急性期は医療保険で、慢性期は介護保険でという棲み分けを、患者と医療現場不在のままさらに強引に進めようとしているのではないか。

ラジオ関西「寺谷一紀と!い・しょく・じゅう」

医療知ろう!

2010年1月7日~3月25日放送

ラジオ関西協会コーナーがHPで24時間聞けます!

ラジオ関西番組「寺谷一紀と!い・しょく・じゅう」(1月~3月放送)の協会出演コーナーの音声を協会HP (http://www.hhk.jp/) にアップしました。24時間いつでも聞くことができます。

5・22近畿総決起集会

後期高齢者医療制度は即刻廃止!
守ろういのち! なくせ貧困!

日時 5月22日(土) 15時~16時30分 ※終了後パレード
会場 大阪・天満橋 エルおおさか
交通費 実費を協会負担 お申し込みは ☎078-393-1807まで

燭心

医療観光? これには歴史がある。神戸市が売れ残った埋立地ポットアイランドII期に医療産業都市構想を打ち出した11年前。市税をかけて医療関連企業を誘致し、雇用を生み出す計画であった。市民向けには「健康を築く街づくり」観光の目玉としては世界に向け「医療観光」にどうぞであった▼この医療観光とは、神戸に来てもらい、最新技術をはじめ最先端の医療を受けてもらうというもの。「市営国内線専用ですが、特別に海外からのチャーター便で神戸空港の利用もできます」とまでアピールされていた▼再び今日、観光庁が日本の高度な医療技術による健診や治療、日本の温泉や観光地を複合的にアピール。中国人富裕層をターゲットに、鳩山内閣の目指す「訪日外国人3千万人」構想に動き出そうとしている▼先日神戸を訪れた仙石国家戦略相は、医療産業都市に参入している企業に対して、より規制を緩和して自由な研究開発が可能になるよう考慮すべき、さらに外国人医師の参加も検討と会見した。神戸中央市民病院の隣にできる、肝臓移植に特化した病院建設を意欲しての発言に間違いはない。ドバイでの資金調達に失敗、交渉中? こちらはアラブの富裕層向けである。当然、保険外診療▼医師不足など、自国の医療制度が崩壊しているこの時期、国民の社会保障に全力を注いで当然。神戸の事情では中央市民病院、神戸空港いずれも怪しげかつ危険。まずは医療制度の建て直しではないか。(無)